

やまがた (No34)**森林・山村活性化通信****森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会****(公財) やまがた森林と緑の推進機構**

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場 2265

TEL.023-688-6633 FAX.023-688-6634

E-mail : osumi@ymidori.or.jp

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 関係人口創出の考え方等 | 4 メーブルサップビールは |
| 2 実施状況報告にあたっての | いかがですか!! |
| 提出書類チェック表!! | 5 SDGs バッジを配布 |
| 3 活動組織 PR パネルの紹介!! (5 組織分) | 6 地域協議会の開催 (再掲) |

**1 関係人口創出等の考え方**

関係人口の取り組みについては、3 年度は 3 つの活動組織が、これまでの経験や独自のネットワークをテコに実践しています。そして、試行錯誤しながら、来訪者に森林整備の重要性等を説明し、森林作業にまでこぎつけており、従来の観光・体験より一歩先に進めたものと考えています。

4 年度も昨年実施した 3 つの活動組織が、継続を希望しており、各組織の創意工夫や来訪者の地域との関係の強化を期待しているところです。

林野庁は、「関係人口」とは、普段に観光等で訪れる「交流人口」と地域への愛着等により定住や季節性のある居留との間にあり、将来的には地域への移住又は季節性のある居住等の前段階として、森林を介在させながら関係性を深めていくところに位置づけているようです。

また、4 年度は活動組織の受け入れニーズと都市部住民の森林整備等のニーズについてマッチングを行うことを目指しており、本地域協議会としてもそれらをテコにしながら、地域への入りこみ者の増加を図り、関係性を強め、将来的には地域作りの担い手としての確立を目指すことにしています。

これら都市部との交流等は、様々なセクションで実施されており、現在目に付くのは、家付き、土地付き、お金付きのような施策が主流となっており、地域での生活のアメニティの創出よりも経済面での施策が色濃くでているように感じています。

当方は森林の整備を介在させることにより、豊かな自然環境に関心の高いメンバーへの働きかけを中心にしたいと考えております。地域の優れた自然環境や受け入れ態勢、関係者の人柄等をテコに、地域への貢献を果たしたいメンバーからご参集いただき、森林整備の体験から共同作業へと進化させていきたいと考えています。様々な交流、居住、居留形態をとりながら行う地域づくりを発信し、多くの方に普及・啓発したいと考えています。

具体的には、関係人口創出の取り組みを行う 3 つの地域を中心に、周辺の活動組織も含めた受け入れニーズを集約するとともに、県・市町村等の関係機関にご協力をいただきながら、該当地域に関心の高い都市部住民への入り込みニーズを調査し、それらをマッチングし、所定のイベントなどを通じて関係性を強めることを目指したいと考えています。また、里山の整備をどの程度関与させられるかは、未定であります、あせらず回数を重ね、地域の魅力を認識していただくことが必要と考えています。



これに合わせ、活動組織のイベント等の際には、山村暮 **【丸太玉伐り:参加者を指導・中津川森人会】**らしの楽しさ、里山整備の意義、自然環境の素晴らしさ等をテーマにした講演会やセミナー等も行い、認識を深めさせることも併せて行うことを考えています。

関係機関の皆様方もよろしくご指導くださいますようお願いいたします。

2 実施状況報告にあたっての提出書類チェック表!!

令和3年度の事業実施報告書は、事業終了後に速やかに提出する必要があります。また素早く処理しないと、忘れてしまう内容も出てきます。提出が遅れると、事務局のチェックすべき量が集中してしまい、見落としが生じる場合も出てきます。その結果、書類の不備が整備されないまま放置され、会計実地検査等で指摘される可能性もあります。そのようなことが無いように、本年度は、下のチェック表で確認願います。

これらは毎年添付すべき書類です。報告にあたり実施要領 p82~91 にある様式を活用願います。

	項 目	点検	摘 要
1	活動記録(様式第16号) p82		・実施時間については、休憩時間等も考慮して記載。 ・委託したものについても、稼働日について記載。 ・地域協議会の承認日以降で、交付決定前着手届出日以降の分を記載。原則交付金の対象となっている活動を記載。 ・事業タイプ別、写真番号・内容の整合を図る。 ・事務作業も支払いがあるものは、記載し、写真と整合をとる。
2	作業写真整理帳 (別添1及び2) P83とp84		・支払いに関する重要な証拠となるので、活動作業員については、作業日毎、全員を撮影する(全員集合写真・顔が分かるもの。撮影者の存在注意) ・作業場所の状況変化(作業前、作業中、作業後を同一方向から撮影) ・写真番号(例: 030819-No1~No10)を付けて整理する。 ・委託工事、事務作業等についても、作業写真を、作業日毎に撮影する。 ・資機材の購入時にも写真、型式資料を撮影し添付する。 ・(別添2)には上記の重要写真以外で、補完的に活用できるものを整理提出。
3	金銭出納簿関係 (様式第17号) P85		・金銭出納簿と領収書(コピー)、通帳が比較できるように番号等を付ける。 ・総会や役員会の人件費、懇親会費は認めていない。(計画策定等会議のみ) ・立替払いを行った場合は、団体から個人に支払った証明書を添付 ・タイプ別に支払いが分かるように、必要な場合は補助簿も添付。
4	モニタリング結果報告書(様式18号) p86、p87		・最低3年間の調査を実施し報告する。最終年実施後にも報告が必要。 「活動の目標」については、活動計画記載の内容を転記。 ・初年度は、現状調査と1回目の整備後の調査の2回の調査が必要。 ・モニタリング位置図を添付する。
5	実施状況整理表		・(別紙1) p89の様式使用。取り組み内容等は申請書等と整合した記載。
6	効果チェックシート(別紙2)		・R2年度から添付する様式。取り組み効果等について自己判断を求めている。 P90、P91
その他	(1) 提出部数		・申請と異なり1部で結構です。未提出項目がある場合は受け取らない。
	(2) 日付など		・交書類に日付があるかどうか。ボールペンで記載してあるか
	(3) 市町から通知文		・付決定書の写し及び額の確定書の写し。後者は翌年度でも可。
	(4) 証拠書類等		・支出確認のため領収書のコピー添付。出納簿記載は1項目1領収書。 ・面積の算定根拠に算定資料を添付か考え方を記載。日付の入っていない領収書は無効。領収書には内容も記載のこと。
	(5) 資機材		・メンテナンス費用は計上不可。消耗品及び資機材の適切な判断 ・地域でリースとの比較を行う。保管場所の確保及び稼働日誌の存在 ・振込料及び代引き手数料等は対象外。
	(6) 委託等		・見積もりは複数社から取る事。契約書や請書も添付する。検査書等。
	(7) 森林経営計画		・該当箇所の計画の有無を市町村に対し確認する。2年目以降も随時確認。

3 活動組織 PR パネルの紹介!!

令和2・3年に活動を開始した活動組織の取組内容をパネル化し、交付金及び活動組織のPRに活用します。イベント・会議・公的施設への展示等様々な使い方が可能です。本号で5枚紹介します。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

西山を宝の山に!! 荒廃する里山の整備と森林資源の活用

西根森づくりの会 (長井市)

〈活動組織所在地〉
長井市勸進代 1446



活動組織概要

地域住民の目を里山に向け、貴重な地域資源を活用して地域の活性化を図るため、平成29年1月に設立された組織で、現在の会員は31名です。設立当初は、活動区域を大字勸進代としていましたが、活動成果が認められ、隣接する大字草岡にも拡大しています。



活動目的

広葉樹は、ナラ枯れ枯損木の伐倒による斜面崩壊の防止、適正更新により薪やキノコの榎木の供給などを目的としています。また、針葉樹は、下刈り、枝打ち、間伐によるきれいな人工林の形成と間伐材のバイオマス発電所への原料供給、松枯れの伐倒による景観保全を目的としています。



活動内容 (令和2～4年度) — 第2期対策 —

放置された山林の下刈り、ナラ枯れ、松枯れの伐倒により景観が良くなり、会員、地域住民の山への関心と意識の変化が見られ、山への愛着が醸成されつつあります。適正密度の路網を整備し、森林を定期的に管理するため、令和2年度に3tクラスのバックホウを導入し、作業道整備や集材に活用しています。活動の継続により、市からも林業施策集団と認知され、市内小学校で行っている木のぬくもり体験事業の榎木供給や獣害対策緩衝帯整備事業を受託しています。



今後の抱負

里山を活用した地域発展の可能性について」と題して令和3年10月に西根地区で行った湊澤寿一氏の講演により、地域住民の森林に対する関心が高まりつつあり、その動きを活用しながら、森林資源を活用した地域活性化を図っていききたいと考えています。

針葉樹より広葉樹が多いことから、有効活用を図るため、榎木の供給に留まらず、効率的な薪づくり、広葉樹の用材化などを模索し、若い会員が、生業の一部として山仕事に携わっていけるような仕組みを構築していきたいと考えています。



間伐により明るくなった杉林



松枯れの伐倒作業



榎木の準備作業



導入したBHでの路網整備



導入したBHでの間伐材の集材



湊澤寿一氏の講演



森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

災害に強く、 豊かで美しい森をめざして!!

浅立森づくりの会（白鷹町）

〈活動組織所在地〉
白鷹町大字荒砥甲7-1



活動組織概要

白鷹町浅立地区の地元住民有志を中心とする20人で構成。急傾斜地が多いため、伐採作業に協力してくれる他町の元森林組合作業者も参加している。多面的交付金に関わる伐採事業は、組織再編をしつつも、2014年から継続している。



活動目的

2013年、2014年、さらに2020年にも豪雨による土砂災害を受けた浅立地区では、当初より、地元住民が、過密した森林の間伐を進めることで、風や光が通り、樹木がしっかりと根を生やすことのできる健全な森づくりをすることこそが、一番の災害対策であり安全で豊かな地域づくりであるとの認識に立って伐採作業を継続している。



活動内容（令和3～5年度） — 第2期対策 —

2014年から2020年の7年間で50ヘクタールを超える面積の森の間伐・整備を終えることができたが、まだまだ過密で暗く荒れた森が残っている。2021年度からの3年間では、ドローンを使って林況を詳しく把握し、間伐・整備の必要な森林を特定し、今後の作業計画を立案し、作業を実施する。毎春、地元住民に呼びかけ一緒に山見をすることで、整備後の森と整備前の森を比較してもらい、間伐作業の重要性を理解してもらうよう努めている。



今後の抱負

会の事業に対する地区住民の理解を広め、より若い世代が森林への関心を高め、会に参加してもらえるよう働きかける。地区住民が家族連れで「森で遊べる」場所を作りたいと考えている。



構成メンバー



恒例のチェーンソー講習会



ドローン映像の試写



2020年7月の豪雨による道路崩落



搬出作業



整備後の明るくなった森

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

杉の人工植栽で過密になった 地元の山を地元民、自らで健やかにする

畔藤森づくりの会（白鷹町）

〈活動組織所在地〉
白鷹町畔藤 2296



活動組織概要

構成メンバーは、地元の農家2人と自営業2人、30代から60代までの計4人です。田植え時期を終えてからの少し融通の利く期間を、地元の山の整備作業にあてようと、財産区に係わりの深いメンバーを中心に、平成26年に発足しました。



活動目的

地元白鷹町畔藤の森林を地元住民自らの手によって整備し、大雨にも耐えうる健全な地場と、豊かな財産としての杉林にしていくことを目的としています。目的を同じにする他団体への協力、推進活動なども進めていきたいと考えています。



活動内容（令和2～4年度）

昨年のうちに森林所有者と境界確認の徹底をはかっておいたので、今年は杉の枯損木、過密林の整理伐採に全力を注ぐことができました。急斜面を徒歩で40分ほど登らなければならない現場があったりと体力の消耗する状況での作業が多かったのですが、作業は予定通り完遂できました。労働災害防止の心構えや安全作業の基本動作などを毎朝徹底し、それを習慣化させたことも今年度の成果だったと思います。



今後の抱負

畔藤地区の長期放置の杉過密林は急な勾配が多く、整理伐採は危険な作業となるため、今年度のように作業前には必ず労働災害防止の心構えを確認し、無事故で終わることを何よりも一番に心がけたいです。また、役員の若返りなども検討し、今後の可能性を考えていきたいと思います。



メンバー



急勾配での作業



玉切り



伐倒の方向確認



伐採前の下刈



土砂崩れ現場



森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

せっかく山がそこにあるのだから 楽しまなきゃ”損”、”ソン”

山口里山を楽しむ会 (白鷹町)

(活動組織所在地)
白鷹町大字山口 2853



活動組織概要

山口地区は、平成 25、26 年と 2 年連続にわたる豪雨災害に見舞われ、甚大な土砂の流出を経験しました。当会は、特に防災意識の高い地区民や山に関心のある 8 名で構成された組織です。災害にもめげず、楽しみながら身近にある山に関わりを持っていこうと活動しています。



活動目的

当地区は、山林に集落が囲まれている地域であることから、農免農道や集落に近い里山林などの地区民の目にとまりやすい場所での森林整備を実施することで、より多くの地区民に会の活動を PR し、整備活動に参加又は協力してもらえよう森林保全や間伐材等の有効活用を目指しています。特に大面積を抱える財産区・神社林では、地域住民や氏子の森林に対する関心の高まりを期待しています。令和 3 年度からは、区からの要請で区有林(蚕桑財産区)の間伐を実施することになりました。ようやく、地元からも認知されてきたものと考えています。



活動内容(令和2~4年度)

山林所有者は、豪雨災害時の集落を襲った流木の被害にも関心があります。間伐するだけでなく林地残材を解消することも重要です。私たちは、低コストな集材・搬出作業を心掛け、会員が所有するパワーショベル、2tダンプ等既存機械を活用しながら、切ったものはできるだけ搬出するようにしています。搬出した丸太は、C材は近くのバイオマス発電所、良材は製材所等に提供しています。整備した山と隣接する未整備の山ではその山容は歴然としております。光が差し込みきれいになった山林を眺めながら味わうコーヒーは格別です。



今後の抱負

今はコロナ禍、閉塞した状況の中ではありますが、山口の山林を楽しみながら身近な里山にと、今後も積極的に山に入りチェーンソーの音を響かせていきます。令和3年度に導入したポータブルウインチは、搬出困難な場所からも集材できるよう作業道開設と組み合わせ、新たな作業システムを構築していきます。また、会員全員が楽しめるものとして、他の団体から刺激を受け、なめこやしタケの原木栽培を始めました。今後も続けていきたいと思ひます。



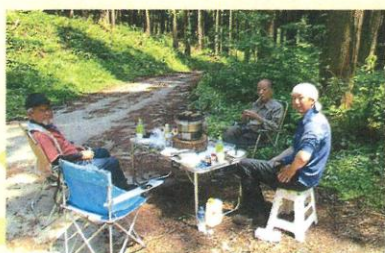
搬出に欠かせない作業道の整備



作業道を利用した集材作業



会員の機械による搬出作業



楽しい屋休みのワンコイン焼肉



PWを使った視察会の一コマ



出荷目標の200tを目指しました

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

森林資源を活用した地域経済の 活性化と技術の継承

飯豊町中津川の森人会（飯豊町）

〈活動組織所在地〉
飯豊町大字数馬 380



活動組織概要

会員所有の森林整備や山仕事の技術継承を行うために、令和3年度に飯豊町中津川地区在住の会員5人で結成しました。そこで、豊富にある雑木や針葉樹を利用した新たな山の魅力を創出するために、建築用材の直販、薪生産、木工用原木生産および直販といった既存の林産活動だけではなく、山仕事そのものを体験型とし地区外や県外の誘客を図り、地域経済の活性化と関係人口創出しようと取り組んでいます。



活動目的

地域人口の高齢化に伴う減少や若い世代の森林への関心が薄れてきた事などにより、山仕事の技術継承が進んでいない現状があります。そのため、森林整備の場を技術の継承と体験型林業のフィールドとして提供し、林業などの山仕事に興味を持って頂くきっかけ作り、そして豊富な森林資源を活用した生業創出の場として地域に賑わいを起こす事を目指します。



活動内容（令和3～5年度）

初年度の今年は、会員が所有する針葉樹林の整備また500mの作業道開設、支障木の伐倒、造材などを行いました。これら支障木から4m材やバイオマス発電向け材などを地元企業に納品したほか、用材を造材する過程で出た端材は薪として生産しました。Facebookページなどで広報し、賛同いただいた県外の方々が作業に参加しました。また、町主催の生木を使った木工技法「グリーンウッドワークス」のイベントの参加者にも森林整備体験などをさせていただきました。他にも、大正大学の学生や置賜地方の高校生が私共を訪れ、地域小規模林業の現状の視察や薪割体験といった活動もありました。



今後の抱負

地域の若年層や移住者にとってのマルチワークの一つとしての地域小規模林業、そして伐採のみならず広葉樹林の育林事業、アウトドアや林業体験などを含めた林業の6次産業化、多種多様な木材の売り方を展開し、地域によるこばれる持続可能な林業を目指します。私達はこれを「森林業」と名付け、森林整備を通じて地域に貢献していきたいと思っています。



活動メンバー



地域外の方との交流



搬出作業



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



4 メープルサップビールはいかがですか!! (クラフトビール)

細野の山を愛する会は、山林資源を活かした様々な取り組みを行っております。この度、自生する「イタヤカエデ」の樹液を採取し、地ビールの生産販売を始めました。是非、お試しください。

☆ 小さな村からちょっと贅沢な贈り物 ☆

ホップの苦みの強いインディアンペールのアルコール度を落とし、本来のボディを活かしながらも、飲みやすさを高めたスタイルで、細野産のホップ(品種:信州早生)とメイプルサップ(イタヤカエデ樹液 100%)を副原料としたクラフトビールです。至福のひと時をお過ごしください。

☆ 販売元(問い合わせ先) ☆

山形県尾花沢市大字細野 615
清流と山菜の里 細野村
代表 五十嵐幸一 電話 080-1817-0620



【単価：880 円/本 税込み】

5 「SDGs」バッジを配布

近年、SDGs (エスディー・ジーズ) という言葉をよく耳にしませんか? SDGs とは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の頭文字で、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

皆様が実施されている森林整備活動は、この SDGs (持続可能な開発目標) の 17 のゴールのうち、「11 住み続けられるまちづくり」「13 気候変動に具体的な対策を」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」等に深く貢献した活動です。

若い世代では特に関心が高く、関係人口創出の取り組みの際にも、SDGs を強くアピールすることで企業や団体からの注目が集まることが期待されます。

このたび、この SDGs シンボルマークをあしらったバッジを多面的機能発揮対策交付金事業の PR のため地域協議会で購入しました。このバッジは、「やまがた絆の森」活動で活躍されている米沢市の(株)ニューテックシンセイ様の製品で、山形県産のサクラ材を使用しています。現在多面的交付金事業に取り組んでいる活動組織に 2 個ずつ贈りますので、地区での活動や会議など、機会あるごとに胸につけていただき、地域の内外に SDGs に貢献している活動であることを周知していただきたいと思います。ぜひご活用ください。



【直径は2.5cmです。】

6 地域協議会の開催(再掲)

3 月 17 日に、本年度の実施状況報告書等を審査検討等する第 3 回標記協議会を開催いたします。委員の皆様から、内容をご検討いただき、それを踏まえて林野庁に実績報告を行います。実績報告の提出が遅れている活動組織は、至急提出願います。不明点は事務局にお問合せ下さい。